

私の趣味



私が幼稚園児の頃、夜寝る前に母がよく尾崎清彦の「また逢う日まで」とか、「雪が降る」のレコードをかけてくれました。たぶんそれがぼくの音楽人生のはじまりだったように思います。

小学生の頃は「およげ！たいやきくん」とか、当時はみんなレコードでした。テレビで放送してても録画なんてありませんでしたからね。高学年になり沢田研二の「勝手にしやがれ」とか、ピンクレディーの「UFO」、キャンディーズの「年下の男の子」など、Single recordいろいろ持ってました。確かちょっと値上がって一枚700円でした。まだレコードを大切に扱うという意識はなく、弟と投げて遊んでいました。くるくる一つと投げて、両手で挟んでぱっと受け取ります。キャッチに失敗するとさすがに落として割れるから気をつけないとっていう意識はありました。『手でカートリッジをレコードのふちに置いて回転すると音楽が聴ける』、それが当たり前の時代でした。ただしキャッチで手の跡がつくと曲を最後まで聴けなくなるんです。なぜなら針が飛ぶから。なんで針が飛ぶのかわからなかったのですが、兄が「お前らが投げて遊ぶからだ」って。て

いか兄もしてましたし、それをまねして遊んでたのですが、なるほどっていうことでもう投げるのは止めました。

TVドラマ西遊記がはじまり、Godiegoの「ガンダーラ」、「Monkey magic」など英語の歌は衝撃的でした。GodiegoのSingleは、同じ曲を、A面は日本語でB面は英語で歌ってるというのがありました。LP recordを買い、Victor stereo comboを買ってもらいました。Record playerはカートリッジが自動でレコードのふちに降りるんです。それも2曲目からとか選曲できて、自動で。あれは本当にすごかった。左右のスピーカーからそれぞれ違う音が流れました。

中学生になり、毎朝食事の時テレビの天気予報のバックに流れていたインストルメンタルの曲を聴き、世界にはいい曲があるんだなって思って毎朝欠かさずにチャンネルを合わせていました。日替わりで何曲かあったんですが、兄が調べてきてくれて「Let it be.」、「The long and winding road.」、「Please Mr. Postman」などThe Beatlesの曲だったんです。

「Let it be.」のLP recordを買い、以来レンタルレコードに行ってはThe Beatlesの他のLPを借り



内科 部長

つづき まさゆき
都築 昌之先生

でStereo comboからラジカセに繋いでカセットテープにダビングし、SONYのウォークマンで聴きました。弟は何回も同じLPを借りるのでレンタル店のお兄さんに、新しいレコードを自分で買った方がいいよって言われたくらいでした。私は吹奏楽部でトロンボーンを吹いていたのですがギターと歌の方がいいなって思って、やっぱりまた兄のまねをしてフォークギターを練習することになったのでした。おちが来ないのでこの続きはまたの機会にしますね。

都築先生は毎週水曜・金曜午前に内科、月曜午前に消化器科、第2・4木曜午後には和漢診療科を担当されています。

Doctor's Eyes